

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170101036		
法人名	有限会社 介援隊		
事業所名	グループホーム 愛らんど		
所在地	佐賀市蓮池町大字小松843番地2 (電話) 0952(97)-1318		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21 年 6 月 30 日	評価確定日	平成 21 年 7 月 24 日

【情報提供票より】(平成21年6月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 6.8	

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋建て		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有() 円 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成21年6月30日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	1 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 85.2 歳	最低 76 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	グリーンクリニック・神田胃腸科内科・高森歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

全室南向きの居室から望む景色は、佐賀江川がゆったりと目前を流れて、佐賀の田園風景を十分に堪能できる。「愛らんど」というホームの名前は、この悠然と流れる川に浮かぶ一つの島(アイランド)をホームと見立て、イメージして名づけられている。建物は佐賀の天然木を贅沢に使い、全体に広々とした余裕のある作りになっており、全館床暖房で天窓もあり、各居室にはウッドデッキを設けている。館内は毎朝職員が床の雑巾がけを行い、清潔で明るい。また、食事には大変力を入れておられ、無添加の天然素材を使い、入居者の喜ばれるものを提供するように心配りされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の改善課題であった、地域との付き合い、避難訓練については実施しており、改善が図られている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>毎月10日の勉強会で、全員、一項目毎に意見を言い合い、各項目の理解を深めるよう取り組まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族・自治会長・地域包括支援センターの職員の参加で実施されている。今後更に、地域へ会議の意義を理解してもらい、さまざまな関係機関からの参加と、2ヶ月に1回の開催を期待する。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に苦情箱が設置されており、職員から家族の要望を聞くように努力されている。また、外部の相談役として弁護士を配置されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所にある神社の掃除や自治会の役割を持ったり、運動会・敬老会へ参加されたり、ホームでの夏祭りに地域の方を呼ばれるなど、積極的に交流をされている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との関わりを大切にし、和気あいあいと楽しく暮らせるグループホームを目指そう」を理念として、ホームの整地や道路整備の時から、地域の意見を聞き、つくり上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を、玄関口のみんなが見える場所に掲示し、毎日見て、実施出来る環境になっている。また毎月の勉強会の際に、理念について話をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所にある神社の掃除や自治会の役割をもったり、運動会・敬老会へ参加されたり、ホームでの夏祭りに地域の方を呼ばれるなど、積極的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	勉強会で、全員、一項目毎に意見を言い合い、各項目の理解を深めながら自己評価している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・自治会長・地域包括支援センターの職員の参加で実施している。しかし、2ヶ月に1回の開催がなされていない。	○	今後更に、地域へ会議の意義を理解してもらい、さまざまな関係機関からの参加と、2ヶ月に1回の開催を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の保護課、地域包括支援センター、広域連合などと、必要に応じて相談等行いサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者の状況については、毎月、入居者の担当職員が手紙を送付しているが、ホーム全体の情報提供がなされていない。	○	予定されているホームの新聞「愛ランドだより」を早期に作成し、家族に入居者の報告をされることを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱が設置されており、職員から積極的に家族からの要望を聞くように努められている。また、外部の相談役として弁護士を配置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職がないように努力され、入居者がゆったりと生活できるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月10日に、ホーム内で勉強会を行っている。また外部の研修会にも参加しやすいよう、参加費用や休み等配慮し、参加しやすい環境を整え、研修の機会確保に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国と佐賀支部のグループホーム協会に加入している。また、他グループホームへ訪問するなど、交流も積極的にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際は、家族・本人に見学に来てもらい、ホームの雰囲気に馴染めるようよく相談している。入居された際は、馴染まれるまでの期間しばらくは管理者がそばについて対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の家事・生活活動を通して、入居者と職員が共に過ごし支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族から希望される暮らし方を聞き取っているが、最終的には入居者本人がどう感じているのか、本人の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成の際は、入居者の担当職員と家族・本人を含め話し合いを行い、それを職員会議で確認し、作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回モニタリングを実施し、本人の評価に基づいて適宜見直しを行っている。また、実施期間内に本人の状況に変化があった時にはその都度見直しを行い、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物・病院・自宅への帰省等、外出等における支援について、個別に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、かかりつけ医の確認を行っている。ホームの協力医療機関ではなくこれまでの医療機関を希望された際も、定期的な医療が受けられるように支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際に書面で説明を行い、家族の意向の確認を行っている。実際終末期の状況になった時には、かかりつけの医師と連携して対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの取り扱いについては入居時に書面で説明している。個人情報を用いる時にはその都度、家族へ連絡し、承諾を得ている。また、記録等は事務所で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを大切に、一日の過ごし方は個々の希望や意向を聞き、可能な限り希望にそえるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事をして、会話をして食事が楽しいものになるように配慮している。また、入居者本人の能力に合わせて準備から片付けまで共にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は本人の希望に合わせて自由に対応している。感染防止のために、湯は一人ひとり入れ替えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力に合わせ、食事の準備等の役割を持たれている。また、入居者の生活歴に配慮した支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じ、散歩や、ホーム敷地内の散策など、自由に戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	地域の方々がいつでも訪問して入居者とかかわることができるように、また、入居者の自由な暮らしを支援するために、玄関口の施錠はしていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防訓練等を実施し、避難訓練を行っている。また、災害時の地域の人々の協力が得られるように自治会を通じてお願いしたり、普段からのコミュニケーションを十分にとっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事内容と、摂取量の確認、水分も好きな時に自由に摂られるように、各居室にそれぞれの好まれる飲み物の水筒を置いたり、冷蔵庫で管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓を設けたり、居室は全室、視界が開ける南向きに配置するなど、採光に配慮している。また、共用の空間には、テーブルやソファ、掘りごたつがある畳の間があり、ゆっくりくつろげる。湿度や温度にも配慮が行き届き居心地の良い空間を提供している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に、それまで使いなれた家具やベットを持ち込むなど、自由に居心地よく過ごせるように工夫している。		